

奈良国立文化財研究所要項

一 調査研究概況

A 総合研究

- 1 平城宮跡発掘調査
本年度は第47、52次の6回にわたって調査をおこなった。(本文34頁以下参照)

2 七佛寺巡礼私記の研究

本研究は、『七佛寺巡礼私記』の註解をつくり、あわせて12世紀以前における南都七佛寺の復原的研究をおこなうもので、本年度は東大寺を中心に、記事の逐語的な研究とともに、記載されている作品や寺地・遺構などについて、現存作品はもとより存在しないものについても、類品と関連資料まで広く調査研究をすすめた。

B 各個研究

I 美術工芸研究室

1 西大寺の研究

前年度にひきつづき、従来の調査成果について整理と検討をおこなった。

2 仏像納入文書の調査研究

昨年度に継続して東京大円寺、京都大報恩寺、聖護院、大念寺、三重万寿寺、神奈川称名寺、福岡観世音寺、愛媛円明寺などの諸像について調査し、また蒐集資料の整理と検討を行なった。

3 南都造像史の研究

昨年度に継続して連慶をはじめとする中世の南都における仏師に関して検討し、関連する静岡願成就院、神奈川浄楽寺諸像を調査した。また肖像彫刻の基準作例についても調査した。

4 その他の調査研究

昨年度に継続して写真測量による実測調査を奈良飛鳥寺、新薬師寺、京都岩船寺、平等院鳳凰堂の各本尊について行なった。(本文8頁以下参照)

また滋賀善勝寺等の文化庁調査に参加協力した

5 堂塔壁画の研究

昨年に続き本年度の調査寺院は靈山寺三重塔、大報恩寺、称名寺本堂、西明寺三重塔、石山寺多宝塔、福山明王院、東京国立博物館などである。

6 南都仏教絵画の研究

南都仏画を、絵仏師と本年度はとくに祖師画に重点をおき調査研究した。

7 工芸作品の作風と技術展開の研究

前年度に継続して平安、藤原、鎌倉期の工芸作品を30件選び、その作品に表出された作風と、応用されている技術の相互関係の検討を行なった。

8 厨子の研究

引きつづき京都梅尾高山寺の念持仏入り厨子を中心として、その前後の作例の調査を行なった。

II 建造物研究室

1 建築史料の作成は、もともと基礎的な作業であるので、特に力をつくし、ことに本年度は近世の

技術書にみられる術語の整理に重点をおいた。

- 2 奈良諸大寺の調査のうち、東大寺行基堂(旧俊乘堂)および付近地形を中心として調査した。

- 3 近世民家の研究においては、文化財保護委員会の実施した緊急調査の一部として、福井県下の民家を調査した。また奈良県今井町民家についての予備調査を実施した。(本文19、22頁以下参照)

- 4 修理後の建造物がいかなる経年変形を示すものかについて、写真測量による継続的調査を行なった。(本文10頁以下参照)

III 歴史研究室

1 南都諸大寺古文書の調査研究

東大寺、興福寺、唐招提寺所蔵の経典・古文書絵図等の調査ならびに写真撮影を行ない、「奈良国立文化財研究所史料」の一冊として『唐招提寺史料』の原稿作製を進めた。(昭和45年度出版予定)

2 仁和寺の研究

仁和寺所蔵の古文書典籍の調査ならびに写真撮影を行なった。また『仁和寺史料』第3冊目を刊行するための基礎作業として調査資料の整理検討を進めた。(本文13頁以下参照)

3 中世における寺院制度の研究

薬師寺ならびに法隆寺に重点をおいて研究を行なった。

4 延喜式の考古学的研究

延喜式の記事と考古学的遺物との比較研究を行ない、古代における生産技術・生産形態ならびに流通について検討を加えた。

C 研究発表

1 昭和43年5月25日(於本所)

中世における証文保管の一例 田中 稔
 弥生式文化と銅鐸 佐原 真

2 昭和43年8月10日(於平城宮跡発掘調査事務所)

東朝集殿跡の調査 西谷 正
 朝集殿の建築について 宮沢智士

D 在外研究

韓国における古代都城制形式過程の研究

西谷 正

韓国 昭和43年9月1日~11月30日

E 普及事業

1 平城宮跡覆屋一般公開(発掘調査出土品展覧)

開催日 昭和43年11月1日~3日

開催地 平城宮跡発掘調査部

見学者 約3,600名

2 平城宮展(朝日新聞社主催、文化庁後援)

開催日 東京会場 昭和44年1月4日~28日
 大阪会場 昭和44年2月7日~12日

開催地 東京会場 小田急百貨店
 大阪会場 阿倍野近鉄百貨店

見学者 東京会場 約22,000名
 大阪会場 約18,000名

F 調査指導

本年度の外部調査指導は32カ所で行った(下表)。

調査遺跡名	調査機関	調査目的	調査年月	担当者
一乗谷朝倉氏遺跡	福井・足羽町	史跡整備指導	43年4月以降	牛川・八賀・藤原・石松・他
多賀城跡	宮城・多賀城町	史跡整備指導	43年5月以降	牛川・細見・佐藤
藤原宮跡	奈良県	道路建設工事に伴う調査	43年4月以降	猪熊
小部遺跡	福岡県	宅地造成に伴う調査	43年4・5月	工業・小笠原・藤原
荒神社社殿	奈良・荒神社	社殿保存のための調査指導	43年5月	伊藤・細見
岩橋千塚古墳群	和歌山県	〔紀伊風土記の丘建設に伴う調査〕	43年5月以降	坪井・伊藤・田中琢・牛川・本村・石松
二子山古墳	宇治市	宅地造成に伴う調査	43年6月	西谷
大宰府跡	福岡県	発掘計画指導	43年7・10月	沢村・藤井・伊東・他
興福寺大御堂	奈良県	解体修理に伴う調査	43年7・8月	森
薬師寺	奈良県	伽藍配置究明の学術調査	43年7・8月	八賀・阿部・村上
胡桃园遺跡	秋田県	学校造成に伴う調査	43年8月	細見
三才田子遺跡	長野市	宅地造成に伴う調査	43年8月	横田義
末松廃寺跡	石川・野々市町	史跡公園整備指導	43年8・10・12月	藤原
民家入江邸	香川県	県指定文化財保存法の指導	43年9月	伊藤
唐招提寺	唐招提寺	取壊軍建設に伴う地下調査	43年6・7・8月	伊藤・沢村・他
寺戸大塚古墳	京都大学	写真測量調査	43年9月	牛川・伊東・田中哲
宮崎県文化財調査	宮崎県	郷土文化財総合調査のうち	43年9月	伊藤
法金剛院	京都府	市道建設に伴う庭園発掘調査	43年9月	村上・伊東・田中哲・伊藤・牛川・藤原・伊東・宮本・田中哲・他
兵主大社	滋賀・兵主大社	建造物・庭園の保存調査	43年10月	坪井
五色塚古墳	神戸市	環境整備に伴う調査	43年11月	伊藤
民家緊急調査	福井県	民家保存のため緊急調査(第3次)	43年11月	伊藤
出雲国府跡	松江市	〔出雲風土記の丘建設に伴う調査〕	43年11・12月	町田・宮本・阿部
貝野遺跡	四日市市	宅地造成に伴う調査	43年11・12月	山沢
和田峠遺跡	長野県	道路建設に伴う調査	43年11月	山沢
塚の谷古窯跡群	八女市	農業構造改善事業に伴う調査	43年12月	横田義
宇田森遺跡	和歌山県	宅地造成に伴う調査	43年12月	石松
難波宮跡	大阪市	発掘調査及び木簡保存処理方法指導	43年12月	佐原・高島・森・山沢
法起寺	奈良県	道路建設に伴う調査	43年12月・44年1月	沢村・田中琢・狩野
津島遺跡	岡山県	武道館建設に伴う調査	44年2・3月	栗原・本村・小笠原・他
法隆寺若草伽藍	奈良県	築地解体修理に伴う調査	44年3月	田中琢・西谷・佐原・他
美濃国分寺跡	奈良県	寺域確定調査	44年3月	栗原・阿部・佐藤・他
喜光寺	奈良県	阪奈道路工事に伴う調査	44年3月	田中琢・八賀・伊東・宮沢・安達

G 昭和43年度文部省科学研究費交付金による研究

研究課題	種類	研究担当者	交付金
古代・中世における土地利用の歴史的展開	一般研究 (継続)	坪井清足	1,590,000 (円)
中世寺院法の研究	一般研究 (D)	田中稔	100,000
使用痕による石器の用途の解明	同	田中琢	120,000
仏像納入文書の調査研究	同	長谷川誠	120,000
華嚴五十五所絵の研究	同	平田寛	100,000
日本古代建築の部材構成に関する研究	同	沢村仁	180,000
律令時代における古文書の基礎研究	奨励研究 (A)	鬼頭清明	100,000
律令財政の運用に関する研究	同	横田拓実	120,000
朝鮮磨製石器の集成的研究	同	西谷正	100,000
陶硯の研究	同	石井則孝	70,000
横穴墓の研究	同	佐藤興治	100,000
仏教図像学の研究	同	真鍋俊照	100,000
建具の変遷に関する研究	同	細見啓三	140,000

二 組織

A 文部省設置法 抜萃

(昭和二十四年法律第百四十六号)
(昭和四十三年六月十五日一部改正)
第三十六条 第四十三条に規定するもののほか、文

奈良国立文化財研究所要項

化庁に、次の機関を置く。

国立文化財研究所(前後略)

第四十一条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行なう機関とする。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名	称	位	置
東京国立文化財研究所	東京	都	
奈良国立文化財研究所	奈良	市	

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、文部省令で定める。

B 文部省設置法施行規則 抜萃

(昭和二十八年一月十三日文部省令(第一〇九号)及び(昭和四十三年六月十五日文部省令(第一〇九号))

第五章 文化庁の附属機関

第四節 国立文化財研究所

第一款 東京国立文化財研究所

(庶務課の事務)

第百十九条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

四 経費及び収入の予算、決算その他会計に関する事務を処理すること。

五 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

六 庁内の取締りに関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

第二款 奈良国立文化財研究所(所長)

第百二十三条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

(内部組織)

第百二十四条

奈良国立文化財研究所に、庶務課、美術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部を置く。

(庶務課の事務)

第百二十五条 庶務課においては、第百十九条各号に掲げる事務をつかさどる。

(美術工芸研究室等の事務)

第百二十六条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財及び工芸技術に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

2 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

3 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

第百二十七条 平城宮跡発掘調査部に、第一調査室、第二調査室、第三調査室、第四調査室、保存整理室及び史料調査室を置く。

2 第一調査室、第二調査室、第三調査室及び第四調査室においては、別に定めるところにより分担して、平城宮跡の発掘及び調査研究並びにその結果の公表を行なう。

奈良国立文化財研究所年報

3 保存整理室においては、平城宮跡の遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにその結果の公表を行なう。

4 史料調査室においては、平城宮跡に関する史料の収集及び調査研究並びにその結果の公表を行なう。

三 資料及び図書（昭和43年度現在）

図書 一八、二七四冊
写真 六一、七二四枚

四 予算（昭和43年度）

人件費 五五、三三五千円
物件費 一二六、八六七千円
計 一八二、二〇二千円

五 施設（昭和43年度）

土地 五、一二六㎡
建物

建物	春日野	平城	計
事務所	七九七	二〇八	一、〇〇五
倉庫	一九一	七〇三	八九四
車庫	二〇	七七	九七
会議室	四〇		四〇
講義室	一〇九		一〇九
写真室	八六		八六
その他	二〇〇	二、二四一	二、四四一
計	一、四四三	五、二二九	六、六七二

六 研究成果刊行物

奈良国立文化財研究所年報

年	度	名	称	担	当	者
昭和29年度		第一冊	仏師運慶の研究	小林 剛		
昭和30年度		第二冊	修学院離宮の復元的研究	森 蘊		
昭和31年度		第三冊	文化史論叢	小林剛・森蘊・杉山信三・田中一郎・田中稔		
昭和32年度		第四冊	奈良時代僧房の研究	浅野清・鈴木嘉吉		
昭和33年度		第五冊	飛鳥寺発掘調査報告	浅野清・杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉		
昭和34年度		第六冊	中世庭園文化史	森 蘊		
昭和35年度		第七冊	興福寺食堂発掘調査報告	坪井清足・鈴木嘉吉		
昭和36年度		第八冊	文化史論叢	小林剛・守田公夫・浜田隆・杉山二郎		
昭和37年度		第九冊	川原寺発掘調査報告	杉山・坪井・鈴木・田中(稔)・工藤・田中(琢)		
昭和38年度		第十冊	平城宮跡I・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	杉山信三		
昭和39年度		第十一冊	院家建築の研究	小林 剛		
昭和40年度		第十二冊	巧匠安阿弥陀仏快慶	守田公夫		
昭和41年度		第十三冊	寝殿造系庭園の立地的考察	坪井・鈴木・嘉・田中(稔)・工藤・田中(琢)		
昭和42年度		第十四冊	「レース」と「金龜舍利塔」に関する研究	岡田・狩野・河原		
昭和43年度		第十五冊	平城宮跡発掘調査報告II	榎本・坪井・田中(稔)・工藤・沢村・田中(琢)		
昭和44年度		第十六冊	平城宮跡発掘調査報告III	岡田・狩野・河原		
昭和45年度		第十七冊	平城宮跡発掘調査報告IV	榎本・坪井・田中(稔)・工藤・沢村・田中(琢)		
昭和46年度		第十八冊	官衙地域の調査I	岡田・狩野・河原		
昭和47年度		第十九冊	官衙地域の調査II	森 蘊		
昭和48年度		第二十冊	小堀遠州の作事	杉山信三		
昭和49年度		第二十一冊	藤原氏の氏寺とその院家			

奈良国立文化財研究所史料

年	度	名	称	担	当	者
昭和29年度		第一冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)	田沢 坦		
昭和30年度		第二冊	西大寺敬尊伝記集成	小林 剛		
昭和31年度		第三冊	仁和寺史料 寺誌編I	田中稔・狩野久		
昭和32年度		第四冊	俊乘房重源史料集成	小林 剛		
昭和33年度		第五冊	平城宮木簡I	田中(稔)・田中(琢)・狩野・原・横田(拓)・鬼頭・加藤		
昭和34年度		第六冊	仁和寺史料 寺誌編II	田中稔・狩野久・加藤優		

